

地域に息づく観音巡礼 相良三十三観音秋の開帳

相良三十三観音秋の開帳が9月20〜26日に行われました。江戸時代に33カ所の札所が設けられ、始まったとされる観音めぐり。現在では、人吉球磨地域の35カ所の観音堂に、それぞれにご利益のある観音様が祭られ、春と秋の彼岸の時期には観音堂の開帳が行われます。

矢瀬が津留観音（西間上町）を参拝した葦北郡芦北町の坂口エミ子さんは「毎年、娘と2人でお参りに来ている。今年は、孫も連れて親子3世代でお参りに回る」と話し、次の観音堂に向っていました。



第22と24番札所の観音堂は2カ所あるため全35カ所

学校給食の安全・安心を再確認 学校給食用物資納入業者との試食会

市学校給食センターで9月19日、学校給食用物資納入業者との試食会を開催しました。同様の試食会は約11年振り。

会では、同センターの運営状況や学校給食の現状などの説明後、参加者が学校給食に関わる思いを交えながら自己紹介。その後、準備された給食をおいしそうに試食しました。タマネギを納入する林玉葱生産組合の堤千鶴子さんは「皆さんが食の安全に気を付けていることが分かりました。今後も長く提供できるよう、生産を頑張ります」と決意を新たにしていました。



納入業者17人が出席し、連携を深めて試食を楽しんだ

ピザ作りから食と防災学ぶ フライパンピザ焼き体験

農業関係者らでつくる人吉球磨グリーンツーリズム推進協議会は、8月23日にひまわり亭（矢黒町）でピザ焼き体験を開催し、参加者は食の大切さを学びました。夏休み恒例企画として開催しているもの。

参加者は、災害時でもフライパンと身近な材料で簡単に作れるピザの作り方を体験。外の気温で発酵させた生地を伸ばし、思い思いにトッピングし、弱火でじっくり焼き上げました。東間小4年の毎床留夏ちゃんは、「生地をこねるところが楽しかった」と話していました。



親子8組20人が参加した

教育機関の連携の大切さを確認 家庭教育講演会

教育機関が連携し、教育内容や方針に一貫性を持たせることの大切さを学ぶ講演会が9月13日にカルチャーパレスで開催されました。市保育連盟と市PTA連絡協議会、市社会教育委員会が共催したもの。

講師に迎えた元横浜市立小学校の教諭で、現在は東海大学児童教育学部児童教育学科准教授の寶來生志子さんは「問い」を大切にしたいカリキュラムなど、実際にやってきた事例を紹介。「子どもの力を信じて主体性を発揮できる工夫をすることが大切」と呼びかけました。



参加者は、教育の方向性などについて認識を深めた

救急・医療への理解深めて 救急フェア2025



屋内には応急手当を体験するコーナーなどが設置された



ロープを使ったさまざまな救助技術を体験

9月9日の「救急の日」にちなみイベント「救急フェア2025」が、9月13日に人吉下球磨消防組合中央消防署（下林町）で開催され、約千人の家族連れらでにぎわいました。

会場には、さまざまな消防車両がずらり。子どもたちは目を輝かせながら車両に乗ったり、「小さな消防士」となって放水体験に挑戦したりと、さまざまな体験に夢中になっていました。メインステージでは、くまモンと西瀬少年消防クラブがくまモン体操や心肺蘇生法を披露し、会場を盛り上げました。



人吉市医師会と人吉下球磨消防組合の共催で開催された

中川原公園にハーレーが大集合 人吉チャリティーツーリング

ハーレーダビッドソン熊本主催の「人吉チャリティーツーリング」が9月6日に行われ、中川原公園に約70台のハーレーが集結しました。ハーレージャンパンの寄付プロジェクトの一環で、本市の活性化につながればと企画されたもの。

熊本市から来た参加者たちが次々と中川原公園に到着。参加者全員での記念撮影後は、それぞれ復興中の街中を楽しみました。今回、本市の復興支援への募金箱も用意。多くのライダーから温かい募金があり、後日、市へ寄付いただいています。



エンジン音を響かせハーレーが続々と到着

おいしい球磨栗を楽しんで！ 「くまろんフェア2025」開催中

人吉球磨地域で収穫される「球磨栗」のブランド化と知名度向上を図るため、毎年「くまろんフェア」を開催。6回目となる今年も10月20日（月）まで地域内の協力店31店舗で、栗を使ったパンやスイーツなどを販売しています。

市役所で9月22日、協力店5店舗の代表と、市内11店舗から15点の商品が集まり、同フェアをPR。松岡市長は「人吉球磨の栗を楽しみ、この地域の秋を満喫してほしい」とアピールしました。ぜひ各店舗を巡って「球磨栗」をご堪能ください。



見た目も香りもおいしい商品が集まってイベントをPR